

観世音菩薩挾間西国三十三霊場現況調査

園田 由紀子

二十一 番霊場海老毛福寿庵前観世音

(一) 所在地

挾間町赤野裏九三九一―二 (海老毛)



(二) 管理の主体

団体、海老毛の十戸で管理

(三) 祭りと行事

* ご縁(縁日)

四月十八日、即願寺住職による納経、お布施五千円と砂糖箱根(一キロ)

* お通夜 八月十七日夕方～夜

お経なし、管理している十戸が毎年順番でお飾りとお供物の当番に当たる。お飾りは灯明(蠟燭)と供花、お供物は御仏飯・だんご・野菜の煮物。

十戸が集まり、夕方から夜にかけて二時間程度、お茶を飲みながら世間話をする。

右のような祭りを福寿庵建立以来平成二十三年まで続けてきたが世話人の高齢化のため、廃止となった。現在は毎月一日と十五日の九時～十二時、福寿庵に集まり、持ち寄ったお茶菓子や自前の漬物でお茶を飲みながら世間話をしている。

(四) 由来、由緒

福寿庵観音堂については江戸時代に書かれた「雉城雜誌」に「観音堂、海老毛村。旧福寿山松尾寺ト号ス。廃滅シテ小堂僅カニ存ス。」と書かれており、江戸時代中期ごろまでは、ここに福寿山松尾寺という寺があったことがわかる。中に祀られている観音像は当時のものであるか。如意輪観音像は、高さが台座から舟型後背まで三十八センチ、小像であるが金色に塗られ正確に作られていて貴重である。堂の前庭に西国三十番札所を勧請した石造の千手観音が置かれている。